

I C T を活用した 10 の授業形態

	授業形態	I C T 機器活用のポイント	活用ツール例
A1 (一斉学習)	 <p>A1 教員による教材の提示</p> <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆電子黒板や児童生徒の情報端末に、画像、音声、動画などを拡大して書き込みながら提示することにより、提示内容を視覚的に分かりやすく伝えることが可能となる。 ◆情報端末や電子黒板を用いて、作業方法や実演の映像を提示することにより、学習活動を焦点化し、児童生徒の学習課題への理解を深めることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・電子黒板 など
B1 (個別学習)	 <p>B1 個に応じる学習</p> <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆習熟の程度や誤答傾向に応じた情報端末向けのドリルソフトを用いることにより、各自の進度に応じて理解しながら学習を進めて知識・技能を習得することが可能となる。 ◆発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すららドリル ・eboard ・EduMall ・Qubena など
B2 (個別学習)	 <p>B2 調査活動</p> <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報端末などを用いて写真・動画等の繊細な観察情報を収集・記録・保存することにより、細かな観察情報による新たな気づきにつなげることが可能となる。 ◆インターネットやデジタル教材などを用いて、Web 会議等を活用した効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことにより、情報を主体的に収集・判断する力を身に付けることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Teams ・Google Meet ・Zoom など
B3 (個別学習)	 <p>B3 思考を深める学習</p> <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆デジタル教材を用いて、学習課題の思考を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深めることが可能となる。 ◆デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツなどを用いることにより、通常では難しい実験・試行を行うことが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Web コンテンツ ・デジタル教科書 ・教科書会社提供のコンテンツ ・Geogebra など
B4 (個別学習)	 <p>B4 表現・制作</p> <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆写真・音声・動画などのマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れることにより、作品の表現技法の向上につなげることが可能となる。 ◆個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより、制作過程を容易に振り返り、作品を通じた活発な意見交流を行うことが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロソフト ・プレゼンテーションソフト ・表計算ソフト ・授業支援ソフト など

	授業形態	I C T機器活用のポイント	活用ツール例
B5 (個別学習)	 <p>B5 家庭学習</p> <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報端末を持ち帰り、動画やデジタル教材などを用いて授業の予習・復習を行うことにより、個別の進度に合わせて継続的に学習に取り組むことが可能となる。 ◆情報端末を使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Teams ・Google Classroom ・デジタル教科書 ・個別学習ソフトなど
C1 (協働学習)	 <p>C1 発表や話し合い</p> <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報端末や電子黒板などを用いて、個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な見方・考え方に触れたりすることが可能となる。 ◆情報端末を使ってテキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直しながらか話し合うことにより、新たな表現や考えへの気づきを得ることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・電子黒板 ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・プレゼンソフト ・授業支援ソフトなど
C2 (協働学習)	 <p>C2 協働での意見整理</p> <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報端末を用いて、学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深めることが可能となる。 ◆情報端末を用いて、互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Teams ・Google Classroom ・Google Jamboard ・Apple クラクルーム ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・プレゼンソフト ・授業支援ソフトなど
C3 (協働学習)	 <p>C3 協働制作</p> <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループ内で役割分担し、情報端末を用いて同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業することが可能となる。 ◆写真・動画などを用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、児童生徒が豊かな表現力を身に付けることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Jamboard ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・プレゼンソフト ・授業支援ソフトなど
C4 (協働学習)	 <p>C4 学校の壁を越えた学習</p> <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットを用いて他校の児童生徒や地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様なものの見方を身に付けることが可能となる。 ◆テレビ会議などにより学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聴くことにより、児童生徒の学習内容への関心を高めることが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・電子黒板 ・Microsoft Teams ・Google Meet ・Zoom など

イラスト：「教育の情報化に関する手引 追補版（令和2年6月）」（文部科学省）より引用

I C T機器活用のポイント：「学びのイノベーション事業実証研究報告書」（文部科学省）より引用